

**2020年3月期第2四半期決算**  
**IR説明会（2019/11/6開催）説明要旨**

【PL】

収益は、アジア地域における合成樹脂取引数量減少等により、化学本部で前年同期比▲307億円の減収となった他、石炭を初めとする資源価格の下落により、金属・資源本部も前年同期比▲233億円の減収となり、全体では前年同期比で▲480億円減収の8,938億円。

売上総利益も、金属・資源本部での資源価格の下落影響が大きく、前年同期比で▲80億円の減益となった他、食料・アグリビジネス本部でのタイの肥料事業の異常気象による少雨や米を始めとする農産物価格低迷の影響に伴う減益により、全体で前年同期比▲112億円減益の1,097億円。

販売費及び一般管理費は、今期からのIFRS 16号の適用により、物件費として費用計上していたリース使用料を、リース資産の減価償却費として計上することになったが、全体では前年同期並みの856億円。

その他の収益・費用は、非経常的損益では小口の事業売却損益、整理損益等があったが、全体では+1億円の収益計上。前年同期比ではフィリピンでの自動車組立販売事業の事業譲渡や海外太陽光発電事業の売却益計上があった為、▲55億円の減少。

金融収益・費用は、受取配当金の微減により、前年同期比で▲8億円の減益、全体では21億円の費用計上。

持分法による投資損益は、LNG関連会社の油価上昇による増益や海外工業団地の販売増から、前年同期比13億円の増益の132億円。

当期純利益（当社株主帰属）は、前年同期比▲76億円減益の295億円。

【20/3期通期見通し】

上半期の実績を踏まえ、売上総利益は期初見通し2,600億円から、食料・アグリビジネス本部や金属・資源本部の減益により▲100億円下方修正し、2,500億円。

税引前利益も、販管費及び金融収益費用の方で上期実績を勘案し見直しをしており、期初見通し970億円を▲30億円引き下げ、940億円。

但し、当期純利益（当社株主帰属）は720億円と変更はなく、この720億円に対する進捗率は41%。

【BS】

総資産は前期末比241億円増加の2兆3,212億円。合成樹脂取引の数量減少等で営業債権等が減少しているが、リース会計基準変更により、使用権資産を778億円増額計上している関係で、全体として増加となった。

負債合計は前期末比455億円増加の1兆6,811億円。資産同様に営業債務の減少及びリース債務の増加による。

資本（当社株主に帰属する持分）は、前期末比▲210億円減少の5,972億円。利益剰余金は上半期のPLから中間配当を差し引いた145億円の増加となったが、その他の資本の構成要素の中に含まれる為替や有価証券の減少により、前期末比▲357億円減少したことが影響。

ネット負債倍率は前期末比からほぼ横ばいの 0.94 倍。

【CF】

営業活動による CF は安定した基礎的営業 CF の黒字と営業運転資金の還流により、614 億円の回収。投資活動による CF は新規投融資の実行 370 億円と、資産入替をネットして 213 億円の出超。結果として FCF は 401 億円の黒字。

【セグメントの状況】

上半期の実績を踏まえ、通期見直しを変更したセグメントについて説明。

エネルギー・社会インフラは、資源の上流権益の資産入替及び過年度の損失引当案件の売却完了に伴う税効果や国内外太陽光発電事業の発電効率上昇による売電収入の増加等を加味し、期初見直し 55 億円を 25 億円上方修正し、80 億円に変更。

金属・資源は石炭価格を中心とする資源価格の下落により、前年同期比▲64 億円減益の 98 億円となった結果を踏まえ、期初見直し 250 億円から▲15 億円下方修正し、235 億円としている。

食料・アグリビジネスは、特にタイでの異常気象による少雨や米を中心とした農作物価格の低迷に伴う海外肥料事業の減益、国内のマグロ養殖事業の不調に伴う固定資産の減損を勘案し、期初見直し 45 億円を▲25 億円下方修正し、20 億円としている

【BS 見直し】

期初見直しでは、総資産を 2 兆 4,000 億円と見込んでいたが、足元の市況による資産の時価変動や運転資金の減少等を勘案し、▲500 億円引き下げ、2 兆 3,500 億円としている。自己資本も、為替の対円での下落による為替換算調整勘定の減少や自己株式の取得等を加味し、期初見通しの 6,600 億円から▲400 億円引き下げ、6,200 億円としている。ネット有利子負債とネット DER については据え置きとしている。

以上